
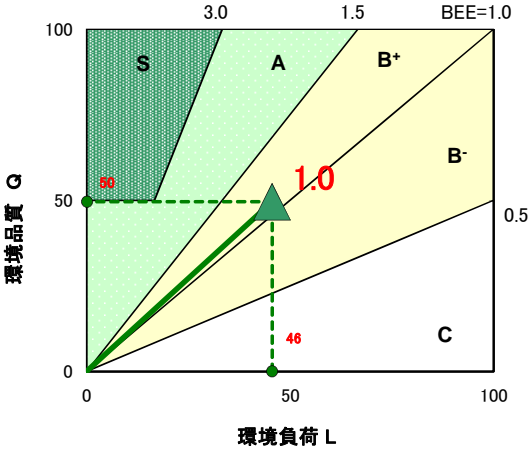


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	富士ダイス株式会社 熊本製造所	階数	地上2F		
建設地	熊本県玉名郡南関町関下1966	構造	S造		
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	100 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2016年2月8日		
敷地面積	27,008 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	3,707 m <sup>2</sup>	確認日	2016年2月10日		
延床面積	5,427 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)																	
		<b>BEE = 1.0</b>															
		$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$															
<b>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)</b>		<b>排出率</b>															
		<b>#DIV/0!</b>															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準</th> </tr> <tr> <th>判定値(排出率)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30%以下</td> <td>☆☆☆☆☆</td> </tr> <tr> <td>30%超60%以下</td> <td>☆☆☆☆</td> </tr> <tr> <td>60%超80%以下</td> <td>☆☆☆</td> </tr> <tr> <td>80%超100%以下</td> <td>☆☆</td> </tr> <tr> <td>100%超</td> <td>☆</td> </tr> </tbody> </table>		■ ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出性能評価基準		判定値(排出率)	ランク表示	30%以下	☆☆☆☆☆	30%超60%以下	☆☆☆☆	60%超80%以下	☆☆☆	80%超100%以下	☆☆	100%超	☆
■ ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出性能評価基準																	
判定値(排出率)	ランク表示																
30%以下	☆☆☆☆☆																
30%超60%以下	☆☆☆☆																
60%超80%以下	☆☆☆																
80%超100%以下	☆☆																
100%超	☆																

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点												
		<b>76</b>												
<b>評価点</b>		<b>■ 熊本県重点評価基準</b>												
<b>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</b>	<b>75.0</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
<b>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>	<b>65.0</b>	<b>※評価点は、100点以上が推奨です。</b>												
<b>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</b>	<b>85.7</b>													
<b>【重点事項4】 循環型社会の実現</b>	<b>79.5</b>													

# CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士ダイス株式会社 熊本製造所	階数	地上2F
建設地	熊本県玉名郡南関町関下1966	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2016年2月8日
敷地面積	27,008 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	3,707 m <sup>2</sup>	確認日	2016年2月10日
延床面積	5,427 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

機能性	N.A.
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	3.6

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 0.0

建物外皮の熱負荷	N.A.
自然エネルギー	N.A.
設備システム効率化	N.A.
効率的運用	N.A.

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.3
汚染物質回避	3.6

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

地球温暖化への配慮	N.A.
地域環境への配慮	2.6
周辺環境への配慮	3.2

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 76**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 75.0**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 65.0**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 85.7**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 79.5**

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE<sup>®</sup> 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

経済性 : 維持管理のしやすい建物、建材、機器採用

環境配慮 : 省エネに配慮した建材、機器採用

### Q1 室内環境

断熱性・遮音性、設備制御性による環境性能向上

### Q2 サービス性能

将来にわたる、建築・構造・設備全体の信頼性・可変性向上

### Q3 室外環境（敷地内）

周辺の景観との調和

### LR1 エネルギー

外皮性能、高効率設備によるエネルギー量削減

### LR2 資源・マテリアル

節水及び資材選定による地球環境負荷低減

### LR3 敷地外環境

地域の規制を踏まえた敷地周辺への環境負荷低減

### その他

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				3.0		3.0		
2 界壁遮音性能						3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0		3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0		3.0		
1.3 吸音						3.0		
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温						3.0		
2 外皮性能						3.0		
3 ゾーン別制御性	室内機1台ごとにリモコンで操作可能							
2.2 湿度制御						3.0		
2.3 空調方式						3.0		
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率						3.0		
2 方位別開口						3.0		
3 昼光利用設備						3.0		
3.2 グレア対策								
1 昼光制御						3.0		
3.3 照度						3.0		
3.4 照明制御						3.0		
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の全面的な採用					3.0		
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量						3.0		
2 自然換気性能						3.0		
3 取り入れ外気への配慮						3.0		
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性						3.0		
2 高度情報通信設備対応						3.0		
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観	事務室天井高3.0m					3.0		
2 リフレッシュスペース	工場面積に対して5.7%のリフレッシュスペース							
3 内装計画	インテリアバースによる内装計画							
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計	内装材の防汚対策、外装材の防錆対策							
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性		3.0	0.50					
2 免震・制振性能		3.0	0.80					
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性			3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具、受水槽3槽式、井水利用	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.50	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	1階6.0m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	大スパン構造	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	空調機のバックアップスペース確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価(3a.3b)			1.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型器具、擬音装置の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎・基礎梁・基礎柱形・基礎スラブに高炉セメントB種を採用	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		外壁に金属パネルを採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			2.6	0.50	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車スペースの確保	4.0	0.50	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.50	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		屋外サイン照明無し	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明無し	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

建物名称 富士ダイス株式会社 熊本製造所 新工場

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				75	0.40	30.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	0.0	0.00			
LR1-3	設備システムの高効率化	0.0	0.00			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.50			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.50			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.20			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数